

第 1 回地域事業報告

2012 年 6 月 19 日(火)午後 2 時～午後 4 時

鷺宮区民活動センター 洋室 2 号

～ヨーロッパ歴史芸術散歩～「ビールとワインで見るヨーロッパの謎」

講師 小宮正安氏(横浜国立大学准教授)

【内容】

ビールとワインの歴史を見ると、ヨーロッパの歴史と深くかかわっている。

古代ローマ時代、文化の劣る地であるゲルマン人が製造し飲んでいたビールは卑俗な飲み物と言われ、ローマで盛んに飲まれていたワインは高貴な飲み物と言われていた。やがてローマ帝国が領土を広げるにつれ、ブドウ栽培とワイン製造が広まっていた。やがて、赤ワインはキリストの血であるとするキリスト教がヨーロッパ全土に広がるとともに、ワイン製造は修道院の財源にもなった。また、「蛮族」にキリスト教を布教するための手段の一つとして、修道院でビールが作られるようになり、ビールは庶民のものとなった。

1516 年、バイエルン公国ではヴィルヘルム 4 世が「ビールは大麦、ホップ、水のみを原料とする」というビール純粋法を制定した。それにより現在でもドイツビールの品質が支えられている。また、フリードリヒ大王ら啓蒙君主が憩いの場としてワイン酒場を推奨し、庶民の間にワイン酒場が広まっていた。

シャンパンは、「泡のワイン」のうちフランスシャンパーニュ地方で生産されるワインであり、生産地は特別感を持たれている。ヨハン・シュトラウス 2 世のオペラ「こうもり」は「シャンパンの歌」で幕となるが、豊かさと空虚さの象徴としてシャンパンが取り上げられている。



講演する小宮先生